

## バス・ノルマンディ州と日本の自治体との交流 —京都府及び広島市への訪問—

パリ事務所

パリ事務所では、フランスのバス・ノルマンディ州と日本の自治体との交流を支援して参りました。去る 8 月 20 日には、同州のローラン・ボーヴェ州議長<sup>1</sup>が京都府を訪問し、山田知事（京都府）との間で経済交流協定を締結しました。また、8 月 21 日には広島市を訪問し、松井市長（広島市）から世界遺産を通じた平和の推進について説明を受けました。これらの交流の経緯や内容についてご紹介させていただきます。

### ■京都府との経済交流協定 ～農林水産物の販路拡大や観光交流推進を目指して～

ボーヴェ議長ら訪問団は、8 月 19 日に京都入りし、その翌日に京都府との間で経済交流協定を締結しました。山田知事とボーヴェ議長が京都府公館内で協定書に署名し、両地域の交流の契機となった京都の宇治茶などの加工品を含む農林水産物の相互の販路開拓や、両地域の世界文化遺産を通じた観光での交流などを進めることについて合意し、協定を締結しました。協定の締結期限は 5 年間で、更新可能となっています。



経済交流協定の締結の様子（京都府提供）

### バス・ノルマンディ州とは？

バス・ノルマンディ（Basse-Normandie）州は、フランスの北西部で大西洋に面する州である。

州内には、カルヴァドス（Calvados）県、マンシュ（Manche）県、オルヌ（Orne）県の 3 県がある。また、面積は 17,589 km<sup>2</sup> で日本の四国よりやや狭い程度、人口は約 147 万人、州内には、サン・マロ湾上に浮かぶ小島に築かれたモン・サンミシェル修道院があり、毎年多くの観光客が訪れている。さらに、第二次世界大戦中、連合国軍によるノルマンディ上陸作戦の舞台となり、多くの犠牲が出たノルマンディ海岸部が知られているが、上陸作戦から 70 周年を迎える 2014 年に、関連する海岸等のユネスコ世界遺産の登録を目指している。また、主な産業として、乳製品の生産が盛んで、特に、カマンベールチーズが有名であるのみならず、リンゴの栽培も盛んであり、カルヴァドスやシードル等のリンゴ酒が特産品となっている。



<sup>1</sup>州議会議長は、審議機関である州議会の長であるとともに、執行機関の長でもある。なお、州議会議長は互選によって選出される。

## ■京都府との交流のきっかけ

京都府と仏自治体の交流が模索されることとなった背景としては、山田知事が姉妹都市交流に積極的であること、2009年に京都府に仏総領事館が開設（大阪府から移転）されたことに伴い、仏総領事館が京都における日仏交流を志向していることが挙げられます。そして、昨年、実際に山田知事が訪仏された際に、京都府との協力関係を構築する自治体を模索していたところ、バス・ノルマンディ州から農産物加工業や観光などの分野別の協力の可能性が示されたことから、今回の経済交流協定の締結までの道筋ができました<sup>2</sup>。なお、昨年 10 月に山田知事が訪仏された際には、



ボーヴェ州議長と山田知事を  
囲んで（京都府提供）

バス・ノルマンディ州との交流を含め、京都府のフランスでの活動について、当事務所として支援させていただき、その後も同州と京都府の関係を深めるためのネットワーク構築やイベント等に事務所として関わってきました。例えば、2012年2月には、バス・ノルマンディ州国際交流部長らの当事務所訪問を受け、同年3月には、ドーヴィル市でのアジア映画祭及び「日仏経済会議」（映画祭に併せて開催）への招待を受け、参加しました。これは、東日本大震災後の日仏の関係強化とバス・ノルマンディ州と京都府の友好宣言をふまえた両自治体の交流を深める目的で開催されたもので、京都府関係者、宮城県関係者、在仏日本大使館、在仏日本商工会議所とともに、当事務所も招待をいただいたものです。

こうしたご縁もあり、この8月に実現することとなったボーヴェ議長の来日についても大変喜ばしく思っております。当事務所として、今後も双方向からの交流が続くよう、支援して参りたいと考えています。

## ■広島市との交流 ～平和のための世界遺産登録を共通項に～

広島市との交流のきっかけは、バス・ノルマンディ州から当事務所への相談でした。同州では、ノルマンディ海岸部の世界遺産登録を目指して活動していますが、その一環として、日本の地方自治体と意見交換をしたいという話が当事務所にありました。そこで、当事務所では、同じく第二次世界大戦時に投下された原子爆弾の惨禍を今に伝える広島平和記念碑（「原爆ドーム」の名で知られております）を世界遺産として登録した広島市へ依頼を行い、その意見交換を実現しました。具体的には、2012年5月に、バス・ノルマンディ州からの招待により広島市から職員が来仏し、世界遺産の登録や保存に関する意見交換を行いました。

<sup>2</sup> 2011年10月18日に京都府及びバス・ノルマンディ州の間で、農業、農産物加工業、観光等の分野で交流を深めるため、友好宣言に署名している。

## ■広島市訪問で世界遺産登録に関し松井市長と会談

今回、訪問団は、京都府との経済協定締結に合わせ、広島市も訪問しました。特に、ボーヴェ議長は、ノルマンディ海岸部を原爆ドームと同様に平和を訴える遺産としてユネスコの世界遺産に申請するため、広島市の経験を学びたいということで、世界遺産を通じた平和の推進に関し、広島市との協力の可能性について協議を行いました。その結果、世界遺産登録に向けた取組みに関して、松井市長からは賛同の署名をいただくことができました。さらに、市長からは広島市の平和の取組みや、広島市が中心となって進める平和市長会議の2020ビジョンキャンペーン<sup>3</sup>等についてもボーヴェ議長に対して説明をいただきました。



ボーヴェ州議長と松井市長の会談の様子  
(広島市提供)



ボーヴェ州議長と松井市長を囲んで  
(広島市提供)

## ■最後に

ボーヴェ議長訪問団が日本より帰国した後、議長に同行したバス・ノルマンディ州国際交流部長と会う機会がありましたが、議長を含め、バス・ノルマンディ州としては、今回の日本訪問は実り多いものだったと、大変満足そうな様子でした。

パリ事務所では、地方自治体の国際的活動が多様化している状況に対応し、フランスでの行政視察や各種調査等の支援とともに、フランス側地方自治体からの依頼についても対応し、日本の地方自治体との交流を推進すべく活動を行っています。フランスでの事業展開や国際交流をご検討の際にはぜひお気軽に当事務所までご連絡ください。

(西村所長補佐 総務省派遣)

<sup>3</sup> 平和市長会議により、2015年に核兵器禁止条約を締結させ、2020年に全ての核兵器を廃絶させようと、世界各国に呼び掛けており、様々な国際的なキャンペーンが展開されている。